

理学療法学専攻 卒業研究評価基準

1. 概要

卒業研究では、指導教員のもとで研究計画を立案し、計画に基づき安全に研究を実施し、得られた結果が研究目的の推論過程を裏付ける内容となり得たか吟味し、課題について検討をする。この過程を卒業論文としてまとめる。また、その成果を卒業研究発表会にて発表、質疑応答の実践を目的とする。

2. 評価項目

概要の内容を評価するものとして、「論文」、「研究活動実施状況」、「卒業論文発表会」の3項目とする。

3. 評価基準

- | | |
|------------------------|-----|
| 1) 卒業論文における評価（指導教員による） | 60% |
| 2) 研究活動の実施状況 | 10% |
| 3) 卒業論文発表会 | 30% |

1) 「卒業論文」 評価基準

	1	2	3	4	5
研究目的の 明確性	研究背景なら びに研究目的・ 意義が明らか でない	研究背景とな る先行研究の 収集に偏りが あり、整理され ておらず、研究 目的・意義が明 確でない	研究背景とな る先行研究に ついての整理 は不十分であ り、研究目的・ 意義は曖昧で ある	研究背景とな る先行研究に ついて整理さ れているが、研 究目的ならび に意義は不明 瞭である	研究背景とな る先行研究に ついて整理、把 握し、研究目的 やその意義が 明確である
方法の妥当 性	対象の選択、測 定機材の選択 について、十分 検討されてい ない	対象の選択、測 定機材の選択、 測定法につい ての検討が適 切ではない	対象の選択、測 定機材の選択、 測定法、計測値 の処理につい ての検討が不 十分である	対象の選択、測 定機材の選択、 測定方法、計測 値の処理につ いての検討が され、適切であ る	対象の選択、除 外基準、測定機 材の選択、測定 方法、計測値の 処理について 十分検討され、 適切である
倫理的問題	説明と同意につ いてなされて いない	説明と同意につ いて口頭なら びに書面に 不備がある	説明と同意につ いて口頭なら びに書面が 整っている	説明と同意なら びに撤回につ いて口頭なら びに書面が 整っている	説明と同意なら びに撤回につ いて口頭なら びに書面が 整い、適切に行 われている
結果の提示	必要な結果が 示されていない	計測結果の一 部が示されて いる	必要な結果が 示されている	必要な結果が 示されている が、図表および 図表の説明が 不十分である	必要な結果が 全て示され、図 表および図表 の説明が適切 である

考 察	結果の記述のみで、考察がなされていない	結果の分析はなされているが、飛躍的で論理的でない	結果の分析はなされているが、論理的に乏しい	先行研究を含め資料を基に論理的に整合性は取れているが、研究目的を明確に示すことできていない	先行研究を含め資料を基に、研究目的に沿った考察がなされ、研究限界について示している
結 論	研究目的と一致していない結論となっている	根拠に基づく結論となっていない	根拠に基づく適切な結論になっていない	研究目的の証明はできている	研究目的と考察を簡潔にまとめ示すことができている
引用文献	エビデンスのない資料を用いている	エビデンスとしては低い引用文献を用いている	エビデンスのある引用文献であるが考察を進めるには不十分である	エビデンスのある引用文献を用い、示している	エビデンスのある引用文献を正しく用い、示している
執筆規定遵守*	全く遵守されていない	誤った箇所が多く存在する	誤った箇所が散在する	概ね遵守できている	正しく、記載されている

2) 「研究活動の実施状況」 評価基準

	1	2	3	4	5
論文提出までのスケジュール遵守	段取りを組むことができず、スケジュール通りに進行することができなかった。	計画の遅れを指導教員よりたびたび指摘され進めていった。	計画の遅れを指導教員より時に指摘されながら、進めていった	計画の遅れに気づき、修正しつつ進めた	計画的に進め、実施することができた
研究活動参加状況	参加率 20%以下	参加率 40%以下	参加率 60%以下	参加率 90%未満	参加率 90%以上

3) 「卒業論文発表会」 評価基準

理学療法学専攻 4 年生ならびに 3 年生による評価ならびに教員評価

配点	10	10	10	10	10
評価項目	研究目的の明確性	先行研究の理解度	研究目的の意義	プレゼンの仕方	質疑応答の妥当性

5 つの評価項目に対し、各 10 点を配点し合計 50 点

4. 成績評定

卒業論文(40 点)、研究活動の実施状況 (10 点)、卒業論文発表会(50 点)に対し、評価基準で定めた各項目の比率 (論文 60%、実施状況 10%、発表会 30%) にて点数を算出し、60 点以上を合格とする。

*執筆規定を以下に示す。

1. 論文作成にあたり

Word を用いて作成すること。

ページレイアウト：上 35mm 下・左右 30mm

フォント：MS 明朝、タイトル 12 ポイント、その他 11 ポイント

字数：40 字

行数：40 行

2. 論文の構成

1) タイトル：

内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。

用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。

原則として略語・略称は用いない。

2) 著者名：

所属、学籍番号、氏名を表紙に記載

3) 要旨：

300～400 字以内

「目的」、「方法」、「結果」、「結論」について項を分けて簡潔に記載する。

4) キーワード：

単語 1 語、3 語程度

タイトルおよび要旨より選び出し、不十分な場合は本文から補充する。

5) 本文：

本文は二段組で表記する（「理学療法学」の体裁に準ずる）

①はじめに（序論、緒言）

研究の背景、臨床的意義、研究の目的、先行研究との関連性の明示などを記述する。

②対象および方法

研究方法について具体的に第 3 者が追試できるように記述する。インフォームドコンセント、倫理的配慮についても述べる。

③結果

研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。

④考察（分析）

結果の分析・評価、今後の課題、研究の限界などを記述する。

⑤結論

研究で得られた結論を 200～300 字で簡潔に記述する。

⑥文献

引用文献のみ記載する。

3. 論文作成について

1) 構成

表紙頁（タイトル、著者名）、要旨、本文、文献、図表(それぞれの図表毎で 1 ページ)で構成する。

2) 枚数

表紙を除き A4 サイズの用紙、4 枚以上を原則とする。

3) 図表

図・写真・表：図・表は本文に出てくる順に、それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に、表の場合は表の上につける。図表の説明（キャプション）は図表の下に記載すること。

4) 文献

引用文献の記載は理学療法学の執筆規定に準ずる

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁（最初頁－最終頁）の順に記載する。

単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載する。
文献の省略は公の省略法（Index Medicus など）に従う。

引用文献の著者氏名が 3 名以上の場合は最初の 2 名を記載する。

5) 数量の単位

単位は原則として国際単位系 (SI 単位) を用いる。長さ : m、質量 : kg、時間 : s、温度 : °C、
周波数 : Hz 等。

6) 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

7) 機器名の記載法

機器名は、製品名 (会社名) で表記する。なお、統計ソフトは「製品名、バージョン番号」
を記載する。